

第2回グローバルヘルス戦略有識者タスクフォース 議事概要

■日 時:令和3年9月1日(水)13時45分～15時30分

■場 所:WEB会議システムによるオンライン開催

■出席者:

議長	南 博	内閣府健康・医療戦略推進事務局健康・医療戦略ディレクター
構成員	伊藤 聡子	公益財団法人日本国際交流センター執行理事
	稲場 雅紀	特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事
	城山 英明	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	藤田 則子	国立国際医療研究センター国際医療協力局連携協力部長
	星野 俊也	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
	原 圭一	外務省国際協力局参事官(地球規模課題担当)
	緒方健太郎	財務省大臣官房参事官(副財務官)【代理出席】
	武井 貞治	厚生労働省大臣官房国際保健福祉交渉官
	瀧澤 郁雄	独立行政法人国際協力機構人間開発部審議役
参考人	林 玲子	国立社会保障・人口問題研究所副所長
	中谷比呂樹	国立国際医療研究センター理事・ グローバルヘルス人材戦略センター長
事務局	八神 敦雄	内閣府健康・医療戦略推進事務局長
	西村 秀隆	内閣府健康・医療戦略推進事務局次長
	福地 真美	内閣府健康・医療戦略推進事務局参事官
	江副 聡	内閣府健康・医療戦略推進事務局/ 内閣官房健康・医療戦略室企画官

■議 事:

- (1) グローバルヘルス戦略の骨格について
- (2) グローバルヘルスの変貌と次世代型人材の開発
- (3) 意見交換

■概 要:

- (1) グローバルヘルス戦略の骨格について

事務局から、グローバルヘルス戦略の骨格の検討状況につき報告した。有識者の主な意見は以下のとおり。

- ・人間の安全保障やグローバルヘルス自体の重要性など、日本がどのような理念で保健分野に取り組むか鮮明に打ち出すべき。日本の教訓から導き出されるUHC支援を打ち出していくのがよいのではないか。
- ・戦略文書の構成や位置づけを整理・検討すべき。人間の安全保障というキーワードも重要。今後の検討課題項目の整理が必要。国際情報の収集のみならず、発信も重要。
- ・学際的なアプローチを考えるにあたって、現地の政治経済社会文化を重視するという姿勢も表現されるとよい。
- ・UHCをより広げて考えるということについて、新型コロナの経験をベースにどのようにまとめて提示できるか。危機管理のモニタリング項目やキャパシティの評価項目を詰めていくといったことも考えられ得る。
- ・世界的なUHC実現にどのように日本が貢献するかというHowが重要。ともにチャレンジして学ぶという姿勢があるとよい。現場としては、もっと効果的なODA活用の方法が必要と感じることが多くある。
- ・グローバルヘルスに関する連携を強化していくにあたり、same-minded groupのような枠組みも念頭において検討するとよいのではないか。
- ・グローバルヘルスアーキテクチャー全体にわたる俯瞰的・横断的なギャップ分析(ガバナンス)及び平時及び危機時の資金メカニズムの検討(ファイナンス)が重要。

(2) グローバルヘルスの変貌と次世代型人材の開発

中谷参考人より、昨今のグローバルヘルスを巡る状況と人材開発の必要性について発表された。有識者の主な意見は以下のとおり。

- ・リボルビングドアで人を育てるという中に、市民社会を位置付ける必要。また、日本のグローバルヘルスを世界に発信するために、国内の人材も検討する必要がある。
- ・裾野を広げるような取組が必要。国内人材も足りないが、国際社会のインナーサークルに人材を配置することも考えるべきではないか。
- ・アジア保健研修所のような、NGO によるアジア太平洋地域における人材育成も日本の国際協力における資産であることも念頭に置くべき。
- ・国際機関、官民連携パートナーシップには、必ずしも保健に特化していなくても、マネジメントやファンディングに強い人材を配置することも重要ではないか。
- ・昨今のパンデミック条約やWHO改革の議論においては、課題が広範かつ深さも深くなっている。自然科学の分野から社会科学に及ぶまでをカバーし、さまざまな組織間での連携も含めて考えていくという必要性が提起されている。
- ・国際機関等の幹部人材を増やすに際し、グローバルヘルスへの影響力から狙うべき組織やポストなどを戦略的に選ぶ必要があるのではないか。